Ａ　小論文『安全の確保』を読んで

１　提出された内容

　・登下校時の自転車通学の安全指導

　・一般企業の保全業務の体験を生かした安全指導の提案

　・学校生活の安全の確保と設備、緊急時の対応

　・防災避難訓練、地域のボランティア活動によって助け合いもできる

２　総評

　　交通安全指導や防災避難訓練のマニュアル通りでは、平均の評価しか得られない。教職員としての力量を読み取ろうとしている評価者には、児童生徒にどのように教育したか（しようとしているか）具体的に表現すべきである。提出された論作文には児童生徒の発言や行動が見られないので、マニュアルを超えることができない。

３　提案①　個人情報に配慮しながら具体例を挙げる

　○「本校では年間２０件の自転車事故がある。」というのだから、たとえば、「幅の広い道の左側を自転車に乗って進んでいた高１Ａさんは、幅が狭く見通しの悪い脇道からスピード出した他校生の自転車が迫ってきて、急ブレーキをかけたがぶつかり転倒した。狭い道の方が一時停止すべきではあるが、交通量の多い時・所を知って事故を避けるべきだった。」というように、実際起こった事故から学ばせたらいいと思う。

　○「2011年の東日本大震災では、防災避難訓練の違いで犠牲者数に大きな差が出た。」といっているのだから、たとえば、釜石の奇跡といわれる教訓（先人からの教訓『津波てんでんこ』といって、想定外の大地震には、マニュアルを超えて率先して高台へ逃げよというので、釜石東中学校と小学校の例は有名。）を挙げて大災害から学んだことを伝えることで、魅力ある論文になると思う。

４　提案②　授業の例・保護者の願いの受け止め方を示す

　○登下校中、危なくて「はっ！」としたことは、誰でもあると思う。場所といきさつを小集団で話し合い、発表させると、マニュアルを超えられると思う。

　○障がいがあるＢさんは、小学校へは近いので集団登校による徒歩通だったけど、中学校へは遠くて自転車で通うことになった。そこでお母さんは、Ｂさんに自宅から３往復付き添って練習し、４往復目は、ひとりで行かせて物陰から観察し、『これなら大丈夫』と確認して安心したそうです。保護者との連携と一言で済まさずに、保護者の願いが聞き取れる力量をつけたいし、文に表現したらいいと思う。

５　提案③　他の人が考えないような視点から力量をアピールする。

　○事件…池田小事件（不審者）、いじめ、体罰、給食（食中毒やアレルギー）、病気（新型インフルエンザ）…

　　事故…交通事故、熱中症、運動中の骨折、転落、水の事故…

　　災害…火災、地震、津波、豪雨（土砂崩れ）、豪雪（雪崩）、竜巻、落雷…

　　このように幅広いのであるから、誰でも考えそうなものを書くと並みの評価になるので、独特の視点、しかも力量を高く評価してもらえる視点をしっかり表現するとよい。

　○授業中に間違った答えを発表しても、受け入れてもらえ、励まされる学級を作ることが大切である。いじめ「事件」にならないような、児童生徒が、安心して学習に取り組める居場所が確保されていることが、一番大きな「安全の確保」ではないか。

Ｂ　小論文『つながりの低下』を読んで

１　提出された内容

　・地域行事（夏の土曜夜市、清掃活動）

　・ホームページや学校便りによる情報発信

　・授業…理科の実験や観察において話し合いを通じて生徒同士のつながりを深める。仮説→活動（工夫）→考察→考証実験（１つの答えを得る）

　・学校行事…文化祭や体育祭において、１つの作品や競技に集中することで団結力が生まれ、つながりが強化される。

２　総評

　　地域とのつながり、生徒同士のつながりが、一般論として語られ、具体性（児童生徒の発言やいきいきした姿）がない。児童生徒にどのように教育したか（しようとしているか）具体的に表現すべきである。たとえば、障がいのあるＡさんは、家庭や学級・社会の中でどのような存在感を持ち（アイデンティティ）、自立したまわりの家族や児童生徒・社会の人々とどのようなかかわりを持っているか、具体的に書けば、つながりが際立つのではないか。

３　提案①　個人情報に配慮しながら具体例を挙げる

　○「私自身も何度か記事を書いたことがある。」というのだから、たとえば、「地域の清掃活動に参加した中１Ｂさんは、可燃物を集めながら、『たばこの吸い殻がこんなに多い。マナーが悪いなあ。』と感想を言ったら、近所の商店主が、『助かるなあ。ジュースでも飲んで。』といって、ジュースを差し入れてくれた。」というように、実際の活動と反響を知らせたらいいと思う。

　○「特に理科の授業の中で、実験や観察を通して学ばせたい。」といっているのだから、予想と反する結果になるような実験に対して、「なぜだろう？」と話し合った例を挙げれば、魅力ある論文になると思う。

４　提案②　保護者の願いの受け止め方を示す

○昨年、私の孫（大阪府大東市小６）の、公害についての学習の際、そのお母さん（私の娘）が学級のみんなに水俣病（妻が認定患者）について話をしたが、さらに「私たちは苦労したが、息子を特別扱いしないでほしい。みんなの中で辛い思いをしている人がいるかもしれないけど、自分だけが一番不幸だなんて思わないでほしい。自分の辛いことを胸にしまい込まないで出し合い、協力し合えば、良い仲間になれるのではないか。」と訴えた。

５　提案③　つながりをもつとは社会づくり、学校教育そのものである

　○つながりをもつとは、教育の目的である人格の完成がされてきた自立した個人同士が手を結ぶことであ、って、形式的な仲の良さをアピールしても感動しない。

　○学校の目標を挙げ、それに向かって活動していることを具体的に記述すればいいと思う。そのときに最も見えにくくなっている少数者の人権に充分目を向けると高い評価が期待できる。人権集会（仲間づくり）や、人権教育を具体的に展開するといいのではないか。

６　提案④　小論文を書く教職員の立つ位置に気をつける

　○石巻市の大川小学校、大津市の中学校、大阪市の桜宮高校の例を取り上げる場合、それらの学校に勤めている教職員の立場で書くのがよい。事件等について論評する場合に、「教職員は何をしていたのでしょうか？」などと、第三者的に書くと、当事者能力なしと評価されやすい。事件等を自分たちの問題と考え書けば、現実の学校現場でもやっていける当事者能力ありの評価が得られる。

Ｃ　小論文『いじめ・体罰』を読んで

１　提出された内容

　・いじめや体罰は非常に難しい問題。ふとしたことがきっかけで起こるから。

　・予防では子どもをよく観察する。クラスの団結を図る。

起こったときは、事実確認、加害者の指導と被害者の心のケア、保護者への開示。

　・いじめはなぜ？性格や考え方が違うから。相手の辛さがわからない。自分の辛さを相手にぶつけるから。解決策は、ロールプレイングをして、グループで話し合う。早期発見、早期対応。

　・体罰は、即成果を求めるからと指導力がないから。なくすには、生徒との信頼関係を築くことと指導力をつける研修をすること。

２　総評

　　いじめや体罰は、決して難しい問題ではなく、少しの洞察力があれば、わかりやすい問題だと思う。いじめや体罰の根本的な要因にメスを入れないで、事件だけを起こさせないようにしようとするから難しいのだと思う。提出された小論文は、学校現場での研修などで言われていることを書いているが、具体性（児童生徒の発言やいきいきした姿）がない。児童生徒がどのような現状にあるか、具体的に表現すべきである。

３　提案①　小論文では、ＮＧワードがある

　×いじめ・体罰は難しい問題だ。いじめはなくならない。…難しい問題だから解決できなくても仕方がないと考えている。

　×問題を起こす児童生徒は、特別な子どもである。…だから、問題を起こしても当然と思っている。そうではなくて、どの子どもにも、問題を起こす要素はあると考えて、学級全体の問題にしないと、当事者能力なし、責任逃れと判断される。

　×設問をもう1度書いて解釈する。特定の言葉を何度も使う。…たくさんの小論文を読み評価する人に苦痛を与えるから。つながりの小論文1200字の中に『地域』が28回も使っている例があった。

４　提案②　いじめの要因は、ストレス・疎外感であり、人権問題であるとの認識が必要

　　短期的には危機管理をして、安全の確保が必要であるが、長期的には展望を持って、人権意識を高め、一人一人が大切にされる学級学校づくりが必要である。

　　私の教育活動であったこと。中2数学の方程式の利用の前段で、「定価1000円の商品を2割引で買うと代金はいくらか？」の設問にＡさんは「2000円」と答えたため、教室にどよめきと笑いが起こった。予定を変更して笑った子どもに解説を求めると「割引なのに定価より高くなるのはおかしい。」などの意見が出て、割合の深い理解が進んだ。教室は間違いを出し合う所であり間違いから学ぶことが大切だと締めくくり、Ａさんを励ます子どもも出た。また、自閉症のＢさんの言動をまねてからかったことに対して、Ｂさんの家族の願いを聞き取り伝えることで表面上のいじめはなくなった。「彼は、『ガイシャ（障がい者）』だ。」と言ってばかにしたり、『○○菌』と言って擦り付けゲームをしたりして対応に追われたことも。自分の見聞きした例を挙げ、どのように子どもたちに寄り添ったかを表現すると、評価者に伝わりやすい。

５　提案③　体罰は、力による支配・急ぐ成果が要因

　　体罰も危機管理をして安全の確保が大切だが、力に頼らず、教職員の力量を高めて学校全体の人権意識を高めることが大切。また、全教職員で一致した指導ができるように研修をする。保護者や地域社会に開かれた学校づくりを目指すと協力も得やすい。

Ｄ　小論文『授業力』を読んで

１　提出された内容

　・「授業が分かる」「学校が楽しい」というためには、子どもの興味・関心を抱いていることを知り、自由に表現させ、認めることが大切である。養護教員としては生活習慣の乱れを把握して、病気の予防のために担任教員や保護者に働きかけて改善をすることで楽しい学校ができる。

　・中学校音楽科教員が、童謡の曲の指導で、文語でかかれた歌詞の意味を解説し、作詞者がいつ、どこで、どのようにして、その時の情景および心情は、など発表させることで深める例が示された。

２　総評

　　教職員を目指す者にとって、学校における授業が中心になる。子どもたちの現状をどのように把握し、どのように働きかけているか、何を目指しているのかを、自分が出会ってきた、あるいは、今出会っている子どもたちを通して具体的に論ずると、質の高い教育論文になると思われる。

　　その点童謡の指導は、読み手（評価者）に強いアピールとなっている。

３　提案①　小論文では、ＮＧワードがある

　×子だもたちの学力低下があげられる…詰め込み世代で、補習と受験競争の子どもが高く、ゆとり世代で、教育内容を３割カットし、総合学習の子どもが低いとは、単純には言えないのではないか。パソコンの能力など、現代の子どもの方が高いものもある。どういう教育をして現状があり、今後どのように取り組んでいくかが大事である。マスコミの主張や自分の印象だけで学力低下と断定すると、先輩教職員や教育委員会（評価者）がやってきたことを非難していると判断される恐れがある。

　×いじめは減少、不登校は増加…いじめも不登校も件数の問題ではない。１件でも大津市の例のように子どもの死者が出るのだから、扱いは慎重にしてもらいたい。小論文では、いじめや不登校に直面している教職員の立場で表現すべきだから、出会っている子どもや教職員・保護者の言葉や行動をよく観察すると、役に立つと思う。

４　提案②　抽象的な論文はマニュアル通りで似てくるから、具体的な授業展開や、子どもを生き生き表現すると、他の論文と差別化ができ、読み手（評価者）に伝わりやすい。

　　中１のあゆみさん（私の娘）は、６＋６を左手の指を折って数えていく。１，２，３，４，５，６を親指、人差し指、中指、薬指、小指、６番目は小指を立てた。次の１，２，３，４，５，６を小指、薬指、中指、人差し指、親指、６番目は親指を折った。そして「１１」と言った。わたしは、「あれ？小指を２回数えたよ。」と言うと、「だって、小指で終わったんだから、次に数えるのは小指からでしょ。」と自信満々の表情で言う。そこで○１２個を２段に書いて

* ○　○　○　○　○　１，２，３，４，５，６
* ○　○　○　○　○　７，８，９、10, 11, 12

と数えて、「１回目の終わりと２回目の始まり（７番目）は違うでしょ。」と言うと怪訝な顔をしていた。横で聞いていた中３のあきとしくん（あゆみのいとこ）は、「あゆみ、ばかだなあ。６．２．１２（６×２＝１２）じゃないか。」と言って、あゆみさんの頭を軽くたたいた。

　後日、先輩の伊藤司郎さん（愛媛教職員組合・組織アドバイザー）に報告すると、「個数を指折りで数えているための間違いであるけれども、問題を自分で一生懸命数えているんだから、まず自分で数えていることをほめるべきだ。」と、指摘された。なるほど自分もあきとしくんの「ばかだなあ。」と、頭をたたくのに同調したことを反省したのだった。

Ｅ　小論文『明治以来の変革期』を読んで

１　提出された内容

　・人間関係が希薄になりコミュニケーション能力が不足しているので、エクササイズなどを用いて、子ども同士や子どもと教職員の関係を深めたい。

　・課題はコミュニケーション能力の低下だから、グループでの話し合いや発表の機会を増やすことで、認め合い、自信をつけさせたい。

　・子どもたちに生きる力をつけたい。そのため、確かな学力をつけたいので授業改善に取り組む。

２　総評

　　テーマが「明治以来の変革期」だ。これまでの教育は、欧米に追い付け追い越せだから、答えのわかっている知識を効率よく身に着けさせることが目標だった。

これからは、答えの出てない課題を、深く考え、討論を通じて協力して答えを出そうとする教育へと向かうべきではないか。文部科学省が提唱してきた新しい学力観がねらっているところでもある。私は、思考力、創造力をつけることと簡単にまとめたい。

今回提出された内容は、変革期を論ずるのに、各論に走りすぎていると感じられた。

３　提案①　中心テーマを外さない

　　今回の小論文題(9年)は、167字で書かれていて、その中には課題や取組を書くように指示があるが、中心テーマは「明治以来の変革期」であり、スケール大きく捉える必要があった。テーマは、昨年(14年)「資質の向上」(232字)、13年「つながりの低下」などであった。小論文題が、比較的長文だから枝葉の単語に惑わされ、書きやすい内容に流れると、出題者(評価者)の意図とずれやすい。中心テーマは外さないようにしよう。

４　提案②　「ゆとり教育」と「ポストゆとり教育」について見識をきちんと持っておく

相対評価から絶対評価へ、関心・意欲・態度などの観点別評価と評定との関係、生きる力と「総合的な学習の時間」は、新しい学力観として文部科学省が大きな変革期をリードするために導入したシステムであり、否定されていないのだから、たとえ個人的見解であっても否定的な論文を書くと、高い評価を得られない。

５　提案③　特別支援教育こそ変革期　国連の障害者権利条約に日本は批准した(2014年1月)

　　この条約は、障がい者をどのように考えているか。

×医療モデル…障がい者にリハビリなどをして力をつけて、社会に適応させようとした。(多くは失敗)

　　○社会モデル…障がい者を受け入れない社会の側に問題があるので、その障壁をなくしていくことで、障がい者を受け入れていく。

　　△ノーマライゼーション…障がい者が通常の生活ができるようにすること。

　　○インクルーシブ…障がいの有無にかかわらず、すべての人が共に暮らす社会にすること。

　　　　　≪事例≫

|  |
| --- |
| 普通学　　普通学級に通う知的障がいがある小1のＡさんをめぐって、教職員と保護者の対立。保護者の話…担任の先生から「集団登校はＡさんにとって危険なので、保護者が付き添ってください」と言われた。付き添って歩いてみると、娘のＡは、班長のすぐ横をおとなしく歩いていて危なくなかった。それよりも、たまに車道に出るなど危ない歩き方をする男の子がいた。先生は、現状を把握しないで、『障がいがあるから危ないはずだ』と決めつけたのではないか。ほかの保護者にいっしょに行ってもらって、付き添い登校を断った。 |

　　　　Ｆ　小論文再び『つながりの低下』を読んで

１　提出された内容

　・けがをした子どもにどのようだったか、これからどうすべきか言葉で表現させ、自分で考えさせたい。保健室登校の子どもには、自信をつけさせ、誘いに来てくれる子どもとのつなぎ役をすることでつながりを築いていきたい。

　・運動会や文化祭などの行事で積極性を育み、地域社会とは職場体験学習で、幅広い世代の人との交流を深めた。

　・マンションのコミュニケーションの場、子ども対象のイベントなど、地域社会のつながりに子どもは欠かせない。教職員の役割は大きい。

２　総評

　・小論文も教育論文だから、実践的でなければならない。そのため、実際に教育の現場で出会ったＡさん、Ｂさんが登場し、生き生きとした描写が必要である。一般論になると、机上の空論に陥りやすいし、何よりも他の受験者との差別化ができない。つながりを強くするとは、社会性を育む、つまり学校教育の目的そのものである。人権集会の企画とか、友情などを取り扱った道徳の授業の実践でもいいのではないか。

３　提案①　個人情報に配慮しながら具体例を挙げる。

　　　中３で難聴のＡさんは普通学級ですべての授業を受けている。部活動は野球である。携帯用ホワイトボードを使ってコミュニケーションをとる支援員とパソコンを使って要約筆記する支援員が、分担をして支援している。学級の子どもたちは、長い人は９年目、短い人でも３年目のつきあいで、指文字、口元読み取り、ジェスチャーなどで意思を伝えているし、Ａさんから、障がいのある人との付き合い方をたくさん学んだと思う。数学教員の私も、黒板に問題を解かせたり、テストの間違いにコメントを書いたりして支援し、希望の高校に進学した。障がいのある人もこだわりなくいる社会が実現をしている例である。

４　提案②　つながりをもつとは社会づくり、学校教育そのものである。

　　　私が実施した中学校での人権集会を紹介する。アスファルトの道の切れ目に育ったド根性大根がマスコミに取り上げられ、神社ができたり、絵本ができたりした時期だった。全校生徒に、Ａド根性大根、Ｂ畑の大根のどちらが幸せかを問い理由を書かせた。Ａは恵まれない家庭で育つ生徒、Ｂは恵まれた家庭に育つ生徒の比喩であった。全校生徒の７割がＢ畑の大根の方が幸せと答えたので驚いた。Ａ・Ｂ２名ずつ代表を選び、全校生徒の前でディベートをさせた。

Ａみんなから称賛される。苦労のあとに立派に育っているから価値がある。種を残せる。（人間に食べられないから子孫を残せる）

Ｂ農家の人に大事に育てられ、のびのび育つ。人に食べられ役に立って幸せ。

最後に、私がまとめをした。「恵まれた環境で育つ方が幸せと感じるのは自然かもしれないが、与えられた環境、条件で精一杯生きることが幸せではないか。したがって、ＡとＢどちらも幸せになるチャンスがあるのではないか。私の妻は、水俣病で苦しみ、子どもを死なせ、痛みが続く。不自由でできないこともあるけど、できることを生かして精一杯生き、他の人から温かく励まされ、強いつながりが持てた。これは幸せでしょ。恵まれない環境で育っている人も、幸せになれるのです。植物も動物も人間も、環境のせいにしないで精一杯生きることで幸せをつかめる。外見で不幸と決めつけないでほしい。」と。この人権集会のあと、校内でいろいろ声かけられ、励まし合った。